

デザインは時として多くの事を語る事がある。昨年7月、久しぶりに訪れたニューヨークで、この言葉を体感することができた。それは、マンハッタンの西に位置するハイラインでのことだ。ハイラインは廃線となった高架鉄道を利用した、現在全長 1.6kmの遊歩道から成る公園だ。予備知識のほとんどない状態でハイラインを訪れたが、そこには既存のものを最大限に活かすミニマムなデザインから創られた独特の世界があった。

遊歩道はかつての鉄道路上に造られているが、所々に手つかずの場所が残っている。錆びた線路や枕木が顔を出し、その周りを所狭しに植物が覆っている。植物は一見雑草のように見え、ほとんど手をかけていないようにも見えるが、全体を見てみると多種に及び花や草木が効果的に植えられており、ハイラインの環境を考慮した上で緻密に設計、管理されていることを伺わせる。適度に放置されているように見える植物は、単調な遊歩道に色彩を与え、周囲の景色との調和と自然で心地よい空間造りに大きく貢献している。錆びた線路や柵はこの場所の歴史の重みを感じさせる。その中で所々に設置されたアート作品と、シンプルなデザインのベンチや水飲みがアクセントを醸し出す。これらが高さ地上3階程度から見えるハドソン川や周りの古いビル群と相まって、ここにしかない独特の空間を作っている。そこにはミニマムなデザインだからこそ実現できた、この場で培われた長い年月の重みを包含する既存のものと、新たなものたちの融合によって生まれた、個性的で豊かな空間がある。

ハイラインの存在は、ニューヨーク市やそこに暮らす

人々がこの街に求めているものを伝える。ニューヨークはもはや経済または芸術の先端を担うだけでなく、ここに暮らす人々にとって心地よい街づくりを推進している事が伺える。そして訪れる人々へ、生活都市としての街の在り方を提言しているかのようだ。

ハイラインの実現には長い年月を要した。かつて精肉などを運ぶ貨物列車が走行していた高架鉄道は1980年に廃線となり、その後約20年間放置されていた。ニューヨーク市は一時撤去を決議したが、撤去に反対する市民活動が広まり、公園化が決定された。市民活動は近隣住民二人によるボランティア活動から始まった。現在も施設の建設費はニューヨーク市が負担しているものの、運営はこの二人が立ち上げた非営利団体フレンズオブハイラインが行っている。特筆すべきは、その運営費用の90%が民間からの寄付により賄われている点だ。行政だけでは、または民間だけでも実現しなかったであろう、両者が力を合わせたからこそ成し得た成果がハイラインにはある。

ハイラインの成功は、長年荒廃していた地域を活性化させた。公園そのものが利益を産出する訳ではないが、憩いの場

が生活の質を高め、新たな市場を創り、経済価値を高める。

現在、ハイラインには年間400万人以上の人々が訪れ、ニューヨークでメトロポリタン美術館に次ぐ人気の観光スポットとなっている。既存のものを最大限に生かしたミニマムデザインによる新たな価値の創造。現在、企業や官公庁が盛んに取組んでいるイノベーションにも応用できそうだ。

デザインで伝える メッセージ2 ～ニューヨーク ハイライン～

渡邊知子国際特許事務所代表

弁理士 渡邊知子



植物に覆われた線路と枕木



ハイラインを散歩する人々



撮影：渡辺英明